

4月18日(木)に3年生を対象とした、全国学力・学習状況調査(国語・数学・アンケート)の分析結果を以下に記載します。ご覧ください。

○令和6年度の調査結果の分析

I 調査結果にみられる特徴と現状分析

【国語】

「話すこと・聞くこと」の分野では昨年より成績が向上している。しかしながら「情報の扱い方」や「言語活動」については課題がみられる。読み取る力を学習する機会が少なくなっているという現状があるため、学校でも図書書の推進を図りたい。また漢字学習の定着、プリントやテストなどで語彙力を増やす学習に取り組みたい。

【数学】

- ・「図形の分野」の分野は、他に比べ正答率が高い傾向にある。
- ・「数と式」の分野では、文字を用いて偶数を表すことや、1つの文字について方程式を変形する問題に課題がある。
- ・基礎的、基本的な計算技能を身に付けるだけでなく、根拠や理由も説明できるような思考力を付けさせたい。

【アンケート】

学習に対する関心や学習習慣などに「できている」という自信が持てていない生徒が多いことが推察できる。今後も、学校で出された課題を行うだけでなく、主体的に課題を見つけて学習できるような授業での働きかけや、日ごろの意識付けが大切である。

II 改善目標

- ・「知識・技能」の習得に向けた主体的な学習習慣を身に付けさせる。
- ・「思考力・判断力・表現力」の向上に向けた協働的な学習の推進。
- ・ICTの効果的な活用の推進。

III 改善方策

- ・授業の中で班別の活動の積極的活用
- ・読書活動の活性化
- ・小中間での、学習内容、学習習慣の連携・協働

IV 検証方法

- ・全国学力学習状況調査結果の分析
- ・授業の振り返り
- ・定期テスト、各テストの効果的活用
- ・保護者アンケート
- ・学校運営協議会会議
- ・職員による自己評価アンケート